NEWSLIE



IAPAN ASSOCIATION FOR EDUCATIONAL TECHNOLOGY

教育工学協会ニュ

第49回全日本教育工学研究協議会全国大会 青森大会の開催にあたって



六ヶ所村教育委員会

第49回全日本教育工学研究協議会全国大会が、多くの関係者の方々のご尽力により、北 東北初として青森県六ヶ所村及び三沢市で開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

青森大会は公開授業を六ヶ所村で、全体会を三沢市で開催します。今回は、開催地を代 表して六ヶ所村教育委員会の取組を紹介します。

六ヶ所村は、明治22年に6つの村が集まってできた村です。南北33km、東西14kmの広大な 大地に5つの湖沼を擁し、東は太平洋、南は小川原湖に面する、水の景色が印象的な村で す。豊かな自然環境を生かした農業や漁業に加え、エネルギー関連の産業が急速に発展し、 国内最大規模の大型風力発電や太陽光発電、原子燃料サイクル施設や国際核融合エネルギー 研究センターなどの施設が集積する「エネルギーの村」として、広く知られています。

六ヶ所村教育委員会では、学力向上を教育課題とし、その一環として平成21年度から「教 育の情報化」に取り組み始めました。電子黒板配備、実物投影機等の導入、平成26年度か らは小学校5年生以上にタブレット端末配備を順次行いました。また、学習の基盤となる 資質・能力としての情報活用能力の育成を最重点に据えた村学校教育情報化推進計画を策 定し、村情報化推進会議を中心として、教職員対象のICT活用研修会、ICT支援員やネット ワーク環境整備企業とのICT定例会を開催し、村内の情報化推進を図っています。

平成28年度からは学校情報化優良校に認定される学校が出始め、平成30年度までに全て の村内小中学校が認定され、村教育委員会が学校情報化先進地域に認定されました。

現在、GIGAスクール構想の実現のため、タブレット端末を更新し、学習支援ソフトウェ アやタブレットドリル等を活用しながら授業改善に取り組んでいます。また、統合型校務 支援システムを導入し、教職員の負担軽減にも取り組んでいます。

大会当日の公開授業では、大会テーマ「ICTの活用で子供たちの可能性を引き出す令和の 日本型学校教育の構築を目指して~本州最北端 青い森からの新たな風~」にあるとおり、 子供一人一人が主語の令和の日本型学校教育構築のため、個別最適な学びや協働的な学び を組み込み、複線型の授業を目指し取り組んでいる姿をお見せできればと考えております。 授業公開校は、小学校2校、中学校1校、高等学校1校の4校です。

クラウドを活用した子供一人一人が主語の学びへの模索は始まったばかりです。参加さ れる皆様から忌憚のないご意見をお聞かせいただきたいと存じます。

今年度も、昨年度に引き続き対面開催となります。六ヶ所村の子供たちの姿を皆様の目で ご覧いただき、本州最北端からの風が皆様にとって新たな風となることを願っております。

最後になりましたが、本大会に携わっていただいた多くの関係者の皆様に厚くお礼申し 上げますとともに、本大会のご成功と更なるご活躍を心から祈念いたしまして、ご挨拶と させていただきます。

2023

発行日 2023年8月10日 発行所 日本教育工学協会 発行人 高橋 純 事務局 〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-1 虎ノ門ツインビルディング 東棟1階 TEL: 03-5575-0871 FAX: 03-5575-5366 https://jaet.jp

|第||49||回||全||日||本||教||育||工||学||研||究||協||議||会||全||国||大||会|

「ICTの活用で子供たちの可能性引き出す令和の日本型学校教育の構築を目指して~本州最北端青い森からの新たな風~」

JAET事務局

8月1日より、事前参加申し込みを開始しました。 2日間の開催内容をご案内いたします。

1. 開催概要

開催日程:2023年10月27日(金)、28日(土)

会場:青森県三沢市 三沢市公会堂 公開授業校:六ヶ所村立南小学校

> 六ヶ所村立千歳平小学校 六ヶ所村立第二中学校 青森県立六ヶ所高等学校

2. 大会日程(予定)

(1) 大会1日目:10月27日(金)

9:30~9:45 六ヶ所村公開校開会行事

10:00~12:00 4校による公開授業

*各学校で受付・授業・研究協 議会の時間が異なりますので、

3項をご覧ください。

12:00~ 公開校で昼食

13:00~14:00 各公開校からシャトルバスで三

沢市公会堂へ移動

14:00~17:00 企業展示

14:30~15:00 開会式/学校情報化表彰式

15:10~16:00 基調講演「令和の教育改革と

GIGAスクール構想の加速

文部科学省初等中等教育局 学校デジタル化PTリーダー/修学支援・教材課長(併)学びの先端技術活用推進室長、GIGA StuDX推進チームディレクター

武藤 久慶 氏

16:10~17:00 特別講演「令和の日本型学校教

育に向けたICT活用」

東北大学大学院情報科学研究科

教授 堀田龍也氏

18:30~20:30 情報交換会(グランヒルつたや)

(2) 大会2日目:10月28日(土)

9:30~15:20 企業展示

10:00~12:00 研究発表

10:00~12:00 企業によるワークショップ

13:00~15:00 研究発表

企業によるワークショップ

15:20~16:40 トークセッション「ICTの活用

で 子供たちの可能性を引き出す令和の日本型学校教育 ~公

開校4校の実践に学ぶ~

【ファシリテーター】東北学院大

学 教授 稲垣 忠 氏

【授業指導者】宮城教育大学 特任教授 菅原 弘一 氏/桃山学院教育大学 准教授 木村 明憲 氏/宮城教育大学 講師 岡本 恭介 氏【実践発表校代表】各1名

16:45~17:00 閉会式

3. 公開授業内容

(1) 六ヶ所村立南小学校

受付時間8:45~、公開授業時間10:15~11:00

研究協議会11:20~12:00

公開授業数は各学年と特別支援学級で7つ

(2) 六ヶ所村立千歳平小学校

受付時間8:55~、公開授業時間10:00~10:45

研究協議会11:05~11:55 公開授業数は各学年で6つ

(3) 六ヶ所村立第二中学校

受付時間8:45~、公開授業時間10:15~11:05

研究協議会11:20~12:00 公開授業数は各学年で3つ

(4) 青森県立六ヶ所高等学校

受付時間8:45~、公開授業時間10:15~11:05

研究協議会11:20~12:00

公開授業数は1学年と2学年で2つずつ教科や 単元、ICT利活用の詳細は、ホームページ参照



4. 研究発表

[9:30~12:00] / [13:00~15:00] 以下10のテーマの研究発表を予定しています。

- A. 情報教育(情報活用能力の育成等)
- B. 情報モラル、情報セキュリティ
- C. 教科指導におけるICT活用
- D. メディア教育、メディア・リテラシー
- E. 特別支援教育
- F. 教育・学習用ソフトウェア開発・評価
- G. 教員研修、教員養成
- H. 校務の情報化
- I. ICT支援員及びサポート体制の構築・運営
- J. その他

5. 企業によるワークショップ

[10:00~12:00]

(1) NHK

NHK for Schoolを活用し子ども主体の学習環境 をデザインする

菅原 弘一氏(宮城教育大学 特任教授)

- (2) 公益財団法人教科書研究センター デジタル教科書の新たな可能性を探る
 - 複線型の授業における活用を通じて -佐藤 和紀 氏(信州大学 教育学部 准教授) 三井 一希 氏(山梨大学 教育学部 准教授)
- (3) 日経新聞社

生徒の自律的な学びが進化する。1人1台端末× 日経電子版 for Educationデモンストレーション 荒澤 涼輔 氏 (株式会社日本経済新聞社) 伊藤 沙織 氏 (株式会社日本経済新聞社) 高橋 純 氏(東京学芸大学 教育学部 教授)[予定]

[13:00~15:00]

(4) 一般社団法人日本教育情報化振興会 情報活用能力を育む授業づくりとは ~模擬授業をとおして、授業観をアップデート しましょう~

小林 祐紀 氏 (茨城大学 教育学部 准教授) 他

(5) 一般社団法人日本教育情報化振興会 デジタルシチズンシップと情報モラル 藤村 裕一 氏(鳴門教育大学大学院 教授) 榎本 竜二 氏(中央大学 非常勤講師) 梶本 佳照 氏 (新見公立大学 特任教授) 和田 俊夫 氏 (川崎市教育委員会 指導主事)

(6) BIPROGY

AIとこれからの教育

~教育×AIで学びの場はどう変わる?~ 高橋 純 氏 (東京学芸大学 教育学部 教授) 板垣 翔大 氏(宮城教育大学 准教授) BIPROGY社員

6. お申込方法

参加には事前参加登録もしくは当日参加登録が必 要です。

(1) 事前参加登録について

当会の青森大会ホームページ(以下QRコード) からお申込いただけます。

《事前参加登録の受付期間》

2023年8月1日(火)

~9月18日(月)



《事前参加登録でお申込み可能な内容》

- a) 大会参加
- b) 授業参観校(参観できるのは1校のみです)
- c) 大会二日目のワークショップ
- d) 三沢駅から公開校まで、公開校から三沢市公 会堂までの往復シャトルバス(有料)
- e) 大会二日間の昼食・お弁当(有料) ※公開校(初日)および三沢市公会堂(二日目) での昼食のお申し込みです。
- (2) 当日参加登録について

参加当日に会場受付にて、当日参加登録行って から会場にご入場ください。

ただし、公開授業の当日受付はございませんの でご注意ください。

(3) 参加費用・資料代

参加費は無料ですが、下表のように資料代をご 負担いただきます。ご理解のほどよろしくお願 いいたします。

参加種別	事前登録	当日登録
一般	4,000円	5,000円
学生	3,000円	4,000円
青森県内 教育関係者 /学生	無料	無料

※上記金額は資料代(税別)です。

学校情報化認定

チェックリストでの学校情報化認定



学校情報化認定委員会副委員長(先進地域担当)信州大学 准教授 佐藤 和紀

1. 学校情報化認定とは

日本教育工学協会(JAET)は、教育の情報化の推進を支援するために、学校情報化診断システムを活用して、情報化の状況を自己評価し、総合的に情報化を進めた学校(小学校、中学校、高等学校)を認定する学校情報化認定に2014年度から取り組んでいます。「情報化の推進体制」を整え、「教科指導におけるICT活用」「情報教育」「校務の情報化」に積極的に取り組んでいる学校を称え、学校情報化優良校として認定します。

2. チェックリストに基づいた申請と自己評価

現在のチェックリストは2021年4月に「GIGAスクール構想対応チェックリスト更新版」として改訂されています。WEBサイト(https://jaet.jp/nintei/download/)でもその内容を確認することができます。現在のチェックリストは「教科指導におけるICT活用」「情報教育」「校務の情報化」「情報化の推進体制」のカテゴリーで構成され、各5項目でレベル0~レベル3で自己評価できる仕組みとなっています。

本認定制度では、学校の情報化を学校の教職員が その状況を自己評価し、申請します。その状況を踏 まえて2名の審査員(https://jaet.jp/nintei/ committee/)をランダムに割り当て厳正に審査を行 い、優良校であると認めれば認定となります。ぜひ、 申請前に教職員全員でGoogleフォームなどを活用し ながら自己評価し、その結果を基に議論してみては いかがでしょうか。認定された学校の先生方にお話 を聞くと、管理職や情報担当、教育委員会の担当の みが申請のことを知っており、他の教職員は知らな いという状況も少なくありません。これは本来の学 校情報化認定の姿として望ましい状況だとは言いが たいのです。学校の情報化はGIGAスクール構想や教 員の働き方改革に直結しますから、全ての教職員で 現状を把握し、日常の改善に努める体制を作ってい くことが望ましい状況と言えるでしょう。

3. 認定状況

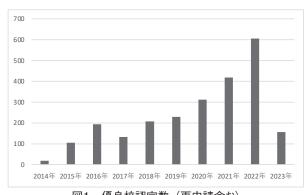


図1 優良校認定数(再申請含む)

5月1日現在、2014年から2023年に優良校として認定した学校数は2381校となります。GIGAスクール構想以降、申請も増えています。そして、2022年度末までに優良校が一定以上の割合になった地域を認定する「学校情報化先進地域」は28地域、特に「教科指導におけるICT活用」「情報教育」「校務の情報化」の中で優れた取組を行っている学校を表彰する「学校情報化先進校」は37校となります。その内訳は「教科指導におけるICT活用」が24校、「情報教育」か5校、「校務の情報化」が8校です。学習指導要領において学習の基盤として位置づけられている情報活用能力の育成を目的とした「情報教育」と、教員の働き方改革につながる「校務の情報化」が少なく、今後、力を入れて取り組む学校が増えて欲しいと考えています。

4. おわりに

審査委員はたくさんの申請を丁寧に審査をし、認定あるいは差し戻しを行い、審査員は申請先の学校にとってより良いアドバイスとなるよう心がけています。JAETと学校が心を通わせ、議論しながら、これからも我が国の教育の情報化に寄与する制度を作っていければと考えております。

APAN ASSOCIATION FOR EDUCATIONAL TECHNOLOGY

学校情報化認定 優良校紹介 クラウド活用による町の一体的推進



吉田町教育委員会 指導主事 平井 奉子

1. はじめに

静岡県中部に位置する吉田町は、小学校が3校、中学校が1校あります。令和4年度に4校が学校情報化認定優良校に認定され、同年度に町が学校情報化認定先進地域 として認定されています。

令和3年3月にWi-Fi環境の整備、1人1台の Chromebook配備が完了し、令和3年4月から本格的 に活用をスタートさせました。「とりあえず、やって みよう」と吉田町全体で取り組んできた内容とクラ ウド活用による授業・校務の変化について報告します。

2. 吉田町内の学校が繋がる全教職員研修会の実施

令和4年度から4校全ての学校が全クラス公開の 授業研修を行っています。実施校以外の3校の教職 員が授業を参観し、その後、事後協議(写真1)、最 後に、信州大学佐藤和紀准教授の講話を拝聴すると いう研修を繰り返し行っています。

授業案はクラウド共有し、事前にコメントを寄せ 合います。参観中も見たこと感じたことを入力し、 事後はそれをもとに協議します。

授業案をはじめ、様々な情報は全教職員チャットルームに配信しています。このことでペーパーレス化が進んでいます。

町内の学校・教育委員会が常に繋がっていることで、町としての方向性の共有や一体感を生むとともに、町全体として学びが積み上がり、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した授業改善に繋がっています。



写真1 事後研修の様子

3. 授業の変化

全教職員研修会を積み重ねてきた結果、授業にも 変化が見られるようになりました。

「今日は何ができればよいのか」等、子供が見通しをもって学びに取り組めるように、教員が授業の流れを示した手引きを配信しています。見通しがもてると、子供は「自分でやること」を選択します。自分で決めたことにはそれぞれの思いがあるため、そこには「夢中になって活動(思考)している」姿が見られます。(写真2)

中には、単元の計画を子供と一緒に考えているクラスも出ています。 教員にも子供にも個性が表れ始めています。



写真2 授業の様子

4. 校務の変化

連絡・調整はChatを活用、職員会議等の資料はサイトやClassroomで共有することで、ペーパーレス化を図っています。「授業でも校務でも使っているものは同じ」になるよう、様々な資料等をクラウド共有できるように移行しています。クラウド活用が教職員の働き方改革に繋がっています。

5. 今後に向けて

クラウド活用が、子供たちにとっても、教職員に とっても有効なツールとなり、「子供を主語にした授業の質的向上」と「子供も教職員も個別最適な学び と協働的な学びの一体的な充実」を図ることに繋が ることを目指して取り組んでいきます。

学校情報化認定 優良校紹介

「トライ&エラー」からはじめた我が校の教育DX



苅田町立新津中学校 校長 上原 泰

1. 本校の概要

全校児童数443名、15学級の中規模校です。令和3年4月から全学年と全教職員〈会計年度任用職員は除く〉にChromebookが苅田町より貸与されました。令和3年9月に優良校に認定された本校の令和3年から現在に至る様子を報告します。

2. 苅田町における1人1台端末導入

苅田町は令和3年4月、全児童生徒にタブレットを貸与し、本格的に1人1台体制を確立しました。7月、タブレット端末の持ち帰り試行と家庭での通信環境確認調査が行われました。令和4年4月、「苅田町立小・中学校タブレット持ち帰りのルール」を生徒・保護者に周知した上で、日常的に持ち帰り、家庭学習(宿題等)にタブレット端末を活用するようになりました。

3. 新津中学校での取組

Chromebook (クラウド)活用については、「トライ&エラー」で活用をはじめました。まずは、教師が校務や授業外での活用を通して便利さを感じるように取り組み、授業での活用につなげました。遅刻・欠席連絡、健康観察、三者面談日程希望調査、学校評価アンケートでGoogleフォーム(写真1)を活用し、



写真 1 校務関係のClassroom

校務の情報化が進み、校務の効率化・ 負担軽減に繋がっ ています。PTA広 報紙も保護者が共 同編集を行なって います。また、

Google ClassroomやMetaMoJiの活用で、朝の打合せ、 運営委員会や職員会議、不登校対策委員会など各種 委員会でペーパーレス化を推進しています。次に、 授業では、Google ClassroomやMetaMoJiで演習問題 の解答・解説を配付したり、MetaMoJiで学習プリン トや授業資料を配付、意見文やレポートの作成・提 出をしたりしています。また、Googleスライドでプ レゼン資料やデジタル作品、撮影した自分の動画を もとにした自己分析文を作成・発表・交流したり(写 真2)、Jamboardで収集した情報や自分の考えを整



写真2 動画から自己分析文を作成

理・共有したり、 Googleフォームで 授業の振り返りを 記入してスプレッ ドシートで共有す るなど、タブレッ ト端末を学習道具 として活用する場

面が増えました。さらに、本校では、家庭への持ち帰りを予定より半年前倒して令和3年9月から開始しました。その際、インタラクティブスタディ(タブレットドリル5教科)をトライアルから始め、令和4年4月からは教材として保護者負担で導入し、授業中の復習や家庭学習の充実のために活用を進めています。

4. 福岡県情報活用能力向上事業協力校として

令和4年から令和6年まで福岡県情報活用能力向 上事業協力校を担っています。文部科学省の「情報 活用能力の体系表」をもとに、生徒の実態に応じた 情報活用能力と各教科等で育成を目指す資質・能力 の関係を整理して作成した情報活用能力育成全体計 画・年間指導計画に沿って授業を実践しています。

令和4年度は6月と10月に町内小・中学校教職員 を対象に授業を公開しました。さらに、小・中9年 間の系統的な情報活用能力育成を目指した小中連携



写真3 ロボホンを活用した出前授業

を推進し、中学校 区の小学校6年生 を対象にロボホン を活用した出前授 業を実施しまし た。(写真3)





教育の情報化実践セミナー開催報告 本州最北端 青い森からの新たな風を

第49回全日本教育工学研究協議会全国大会青森大会実行委員会 副実行委員長 六ヶ所村教育委員会学務課 木村 智



1. セミナーの概要

令和5年2月4日(土)に「教育の情報化実践セ ミナー 2023 in青森」が三沢市公会堂を会場に開催さ れました。

本セミナーは、第49回全日本教育工学研究協議会 全国大会青森大会のプレ大会として開催されたもの で、110名を超える参加者が集まりました。セミナー では高橋純会長による基調講演「令和の日本型学校 教育と教育の情報化しや六ヶ所村の教育の情報化の 歩み、来年度授業公開校の実践の発表があり、参加 者は熱心に耳を傾けていました。

2. 六ヶ所村の教育情報化の歩み

六ヶ所村は、学力向上を教育課題とし、その一環 として平成21年度から教育の情報化に取り組み始め ました。電子黒板配備、実物投影機等の導入、平成 26年度からは小学校5年生以上にタブレット端末配 備を順次行いました。

また、村学校教育情報化推進計画を策定し、村情 報化推進会議、ICT活用研修会、ICT支援員や環境整 備の企業等とのICT定例会を定期的に開催し、村内 の情報化推進を図っています。

学校情報化優良校に認定される学校が出始め、平 成30年度までに全ての村内小中学校が学校情報化優 良校に認定され、村教育委員会が学校情報化先進地 域に認定されました。

現在、タブレット端末の更新が完了し、 学習支援ソフトやタブレットドリル等を 活用しながら授業改善に取り組んでいま す。また、統合型校務支援システムや Google Workspace for Educationの導入に より教職員の校務効率化にも取り組んで います。

3. 六ヶ所村学校教育情報化推進計画

六ヶ所村教育委員会では、令和元年に 六ヶ所村学校教育情報化推進計画を策定

し、学習の基盤としての情報活用能力(図1)を重 点的に育成し、教育の情報化をさらに推進する必要 があると考え、令和4年に改定をしました。

資質・能力の三つの柱	教科a	教科b	 教科
〇知識·技能			
〇思考力・判断力・表現力等			
〇学びに向かうカ・人間性等			
●言語能力 ●情報活用能力(情報モラル含む) ●問題免見・解決能力 等 学習の基盤となる資質・能力	(A)		

図1 学習の基盤のイメージ (堀田龍也氏2021 「情報教育とSTEAM教育」講演資料)

本推進計画に沿って、村教育委員会として事業を 計画的に進めるとともに、小学校から高等学校まで を見通した「六ヶ所村版情報活用能力の段階表」(図 2) を作成し、各校で情報活用能力育成に取り組ん でもらっています。

4. おわりに

本村の地道な取組が、全国大会開催を機に、本州 最北端青い森の新たな風となり、日本全国に吹き渡 ることを願って今後も情熱をもってがんばっていき たいと思っております。

項目	概要	学習内容	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
基礎的な 知識・技能 (活動スキル)	を館・ツ収手じすす要知 を館・ツ収手じすす要知 をでしているな。 をでしているなどでは、 をでしているなどでは、 をでしているなどでは、 をでしているなどでは、 を作り、 をでいるなどでは、 をでいるなどでは、 をでいるなどでは、 をでいるなどでは、 をでいるなどでは、 をでいるなどでは、 をでいるなどでは、 をでいるなどでは、 をでいるなどでは、 をでいるなどでは、 をでいるなどでは、 をでいるなどでは、 をでいるなどでは、 をでいるなどでは、 をでいるなどでは、 をでいるなどでは、 をでいるなどでは、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるとでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるなどが、 をでいるとでいるとでいるとでいるとでいるとでいるとでいるとでいるとでいるとでいると	撮影・編集 図書・編集 ロペンクテレト ファード入力 メディー・アント・スカ メディー・アント・スカ オリー・フレット等 ロ頻発表等	情報を集する。 一般を表する含など、 一般を用するでは、 一般を用するでは、 一般を用するでは、 一般を用するでは、 一般を用するでは、 一般を用するでは、 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。 一般を用する。	情報 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 () 中 (情報を集めるという。 情も必要なるという。 情もの特性をという。 情もの特性をという。 はいてもない。 はいてもない。 はいてもない。 はいてもない。 はいてもない。 はいてもない。 はいてもない。 はいてもない。 はいてもない。 はいてもない。 はいてもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでもない。 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 はいでは、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は
思考・判断・ 表現力 (探究スキル)	収をてく信た振察た断 収をてく信た振察た断 ルーかとかの返た思現 したりしめ・ をではしたりので、思現 のでではでは、 でである。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。	問題解除決時報の世界の情報の情報の情報の情報の情報の情報の情報の情報の情報の情報の情報の特別が表示。計画能解表示・計画能	情報を編集(整理・分 析や表現)する際、与え基 られた視点や観点ので で工夫して取り組むこ とができる。 ・比較	情報を編集(整理・分 析や表現) する際、学祝点 の見通しをもって視行 を報説することができ る。 ・調査等を基にした提 条	情報を編集(整理・ 析物表現)・発信の過ぎ を表現し、発音の過ぎ を厳ししなができ、し、 とができる。 ・複数の情報からの半 ・相手意識

図2 六ヶ所村版 情報活用能力の段階表(部分)

「|教|育|の|情|報|化|」|実|践|セ|ミ|ナ|ー

自ら問いを立てる自律した 学習者をめざして

六ヶ所村立南小学校 教頭 常田 幸官



「学びの主導権」

六ヶ所村立千歳平小学校 **横濵 和也**



本校は、令和3年度から「自ら問いを立てる自律した学習者をめざして」を教育目標にして、教育活動に取り組んでいます。この教育目標の達成のためには、児童の「面白くて楽しいから」「好きだから」「やってみたいから」という内発的動機付けが極めて重要です。しかし、授業をはじめ、様々な活動において児童が「やらされている感」を感じていることが実態調査によって明らかになりました。

そこで、「情報活用能力の育成」を重点目標にする ことで、内発的動機付けにつなげたいと考えました。

ご指導及びご助言をお願いしたのは、桃山学院教育大学の木村明憲氏です。木村氏が研究されている「自己調整学習」を取り入れて、情報活用能力の育成につなげていくことを全教員で共通理解しました。

木村氏が取り組まれている「シンキング・ルーチンカード」「パワーチェックカード」を全児童に持たせ、各教科や「総合的な学習の時間」の授業で探究的な学習に挑戦させてきました(写真1、写真2)。



写真1 パワーチェックカード

ツールの多さに 可惑う教見童が、児童習 したが、児童習習 しみながら学習に 取り組む様子が見 られるようになり ました。放課後、

教員間で授業について情報交換するようになったこともここまでの取組による変化だと実感しています。



写真2 授業の様子

また、朝の帯時間を使ってのキーボード入力練習、 Google Classroomを活用した授業も今では普通の光景になりました。令和

5年10月27日(金)の全国大会の授業公開の場で本校の研究成果を多くの方々に見ていただければ幸いです。

六ヶ所村立千歳平小学校の今年度の研究主題は「豊かにかかわり、学び深める子ども一協働的に学ぶことのできる子どもの育成を目指して一」です。交流活動をするにあたり「個人思考」の時間を設けたり、児童それぞれの考えの可視化・子どもと子どもをつなぐ問い返しをして考えを共有・整理したりすることを仮説として研究を進めてきました。そして、それらの仮説の検証には、ICTの効果的な活用が必要不可欠でした。



タブレットを手に交流活動

昨年度は、各教 科の授業でタブレットを積極的に活 用し、主にJamboard とロイロノートを 使っての実践を重 ねました。

子どもの考えがたくさん出たり、子どもの問いを 教師が受け取りつつ学びを深めることができたりな ど一定の成果を得ることができました。

課題としては、「どのようにして子どもたちに学びの主導権を渡してあげるか」でした。研究を進める中で、どうしても「教師主体での交流活動の指示」「教師による問い返し」が中心となったため、職員からは「子どもたちに学び方を決めさせたい」「子どもから自然と問いが出てくるようにしたい」などといった声が出てくるようになりました。

1人1台端末を使った授業の研究を進めていくに あたり、これらの課題と向き合っていくことでICTの 効果的な活用が進み、「個別最適な学びと協働的な学 びの一体的な充実」につながると感じています。そ して本校の職員も非常に熱心で、子どももたちの新 しい学びに向けてチャレンジを続けてくれています。

令和5年の第49回全日本教育工学研究協議会全国 大会青森大会では、一歩ずつ進めてきた校内研究、 小規模校ならではのICT活用、教師の前向きなチャ レンジ、そして本校児童の主体的に学ぶ姿を見に、 ぜひお越しください。お待ちしています。

押しよせる校内DX加速の波 日常での取組

六ヶ所村立第二中学校 前田 之人



本校は、全校生徒が75人の小規模校です。1人1 台整備されたタブレットは、昨年度3学期に WindowsからiPadにかわりました。教職員にも1人1 台が整備され、普段使いの取組をスタートしました。 生徒は登校したらすぐiPadにより自分の健康状況を 入力し、この結果が全職員で共有されます。また、 保護者から欠席の電話連絡を受けた職員は、iPadア プリiMessageで情報共有をします。

Google Workspace for Educationを本校のプラット ホームとし、校務、会議、授業、生徒会活動、部活 動等でClassroomを活用しています。(写真1)



写真1 校務・授業・教育活動

授業では本校の 目指す姿である個 別最適化の学び、 協働的な学びの日 常化に向け校内研 修が行われていま す。具体的には、

自由進度学習、課題選択学習、協働的な学び(構成的・ 非構成的)、オンデマンド型授業への対応について各 教員が挑戦しているところです。努力目標として、 展開場面で個人思考(作業)→他者参照→協働→途 中参照のサイクルを生かした複線型授業(クラウド 活用型)を単元の中で数回は実践してみることを掲 げています。

1年生の理科における複線型授業(写真2)にお



写真2 複線型授業

いては、授業後の 生徒の意識調査で、 みんなと考え方を 共有して授業をす るのが楽しくなっ た、調べ学習の幅 が広がったなどの

学力、学習意欲の上下に関係なく協働学習への自信 が高まる可能性があることがわかりました。今年度 の全国大会では、本校教職員の挑戦している姿をお 見せしたいと考えています。たくさんのご参会者を 心からお待ちしています。

情報活用型 プロジェクト学習への挑戦 青森県立六ヶ所高等学校 清水 舞子



本校は、「教科×地域×ICTでつながる・深まる授 業の創造 | を研究主題とし、授業改善に取り組んで います。これまで本校のICT活用方法は、資料の提 示が主でした。昨年度より東北学院大学の稲垣忠教 授にご指導をいただき、ICT活用方法を見直し、情 報活用型PBLを取り入れ、7教科で授業改善に取り 組みました。



写真1 国語科の授業の様子

国語科の「今ま での学習の疑問点 を解決してみよ う!」というミッ ションを掲げた授 業では、生徒の探 究心を刺激する実

践となりました。必要な情報を図書室の書籍から収 集し、グループで共有し、レポートを作成しました。 書籍の活用で、生徒の興味・関心が教科外の内容ま で広がり、主体的な活動が見られました。レポート 作成の場面では、Googleドキュメントをグループで 共有することで生徒の苦手意識が軽減され、ICTの 効果的な活用事例となりました。

地歴公民科では 「対話を通して合意 形成を図る」とい うミッションを掲 げ、太陽光パネル 処理施設の受入れ をテーマに、様々



写真2 地歴公民科の授業の様子

な立場で情報交換・情報収集を行い、その情報をス ライドやJamboardを活用し共有しました。ICTの活 用により様々な意見を共有でき、それぞれの立場の 考えを深め合意形成を図ることができました。

本校は地元企業と連携したエネルギー分野の授業 を実施しています。今後は教科にとどまらず、企業 と連携し、情報活用型PBLの実践を通して、活動の 場を校内から地域へ、そして社会へと広げ、「つなが る・深まる授業の創造」を目指します。

北村山視聴覚教育センター 北村山地区の視聴覚教育の拠点として



北村山視聴覚教育センター 所長 永瀬 淳

1. はじめに

北村山視聴覚教育センターは、村山市、東根市、 尾花沢市、大石田町の広域市町村圏の学校教育、お よび社会教育の振興に寄与するための総合的な教育 センターとして、昭和49年に開所しました。



写真1 センター外観

当時としては珍しいプラネタリウムを併設した施設で、開所以来、幼保施設と小中学校の子供たちを対象とした天文学習や、教職員を対象とした視聴覚教育に関する研修等を中心に事業を展開してきました。

2. 日本教育工学協会への参加

平成6年度に団体会員として登録し、以後、各種 研修会や全国大会等に参加しております。

令和2・3年度には、団体会員が主催する研修会への講師派遣制度を利用しました。それぞれ高橋純会長、豊田充崇副会長によるご講演を受け、GIGAスクール構想により整備された学習者用端末の活用に関して多くの御教示をいただきました。

今年度は、後に紹介する委嘱研究員と共に、青森県で開催される全国大会への参加を計画しており、 児童生徒1人1台端末環境を活かした事例の情報収集をしたいと思います。

3. 注目される委嘱研究員の実践

当センターでは毎年各市町から1名以上の研究員を委嘱し、視聴覚教育に関する研究を行っています。 委嘱期間は2年間で、各研究員の個人テーマを設定 し、Microsoft Teamsのチャット機能を使った日頃の 情報交換に加え、年に一回の授業公開を通して、研 究を深めています。

委嘱研究員制度は大変歴史が古く、当センターの 開所直後の昭和53年から実施されており、今年で46 年目を迎えます。これまで160名を超える教員が委嘱 を受け、現在も多方面で活躍しています。平成14年 からは、研究員の実践と地区内から集まった視聴覚 教育に関する好事例を広く発信するため、ホームペ ージでの掲載も進めています。

年度末に行われる研究成果の報告会では、各研究 員から大変質の高い研究発表が行われ、GIGAスクール構想の進捗と共に参加者も増加傾向にあります。 今後も当センターの最重要事業として取り組んでいく予定です



写真2 委嘱研究員による研究発表会の様子

4. おわりに

児童生徒1人1台端末が整備され、丸3年が過ぎようとしており、視聴覚教育センターの重要性はますます増してきています。

これからも、北村山地区の視聴覚教育の拠点として、学校のニーズに的確に応えながら、教育のデジタル化に関する事業を展開していきます。

北村山視聴覚教育センター HP

https://www.kavec.ed.jp/

JAET団体会員向け講師派遣事業のご紹介

日本教育工学協会(IAET)では、全国各地で「教育の情報化」を推進している団体会員の方々 を対象に、特別な支援事業を行っています。これは、JAETの有識研究者を講師として招く研修会 や勉強会などの開催時に、必要となる費用を一部補助するものです。この事業を通じて、皆さまの スキルアップや研究活動を更に進展させるお手伝いができれば幸いです。詳細な申込方法は以下に 記載してありますので、ぜひご利用ください。

受付期限: 2024/3/20 (水) 迄 (※2024/3/31 (日) 迄に開催する研修会・勉強会等が対象)

補助対象: 2024/3/31 (日) 迄に開催し、当会の有識研究者を講師として招く研修会・勉強

会等 (現地開催、オンライン開催ともに可)

補助金額: 1回の開催につき2万円。補助は1回/団体・年度まで

申込方法: 当会ホームページの右下にある「お問い合わせ」から表示されるフォームの「お

> 問い合わせ内容」欄に、「JAET団体会員向けの講師派遣を希望すること」を明記 のうえ、「団体名」、窓口ご担当者の「氏名」・「所属」・「メールアドレス」・「電話 番号」を入力してご送信ください。申請についての詳細をご連絡申し上げます。

会員募集(個人・団体・賛助)のご案内

日本教育工学協会(JAET)は、教育の情報化に取り組んでおられる現場の実践者、研究者、各

地域の研究団体や関連企業が参加する研究団体です。会員には、個人 会員、団体会員、賛助会員の3つの種別がございます。

まだ、入会されていない先生や団体・企業様がおられましたら、ぜ ひ入会をご検討いただくようご紹介ください。

> 日本教育工学協会(JAET)事務局 〒105-0001東京都港区虎ノ門2-10-1 虎ノ門ツインビルディング東棟1階 E-mail jaet-office@japet.or.jp URL https://jaet.jp



「全国最下位からのリベンジ」〜島根のICT活用指導力〜

都道府県別の教員のICT活用指導力の調査(令和3年度文 部科学省調査)で、わが島根は4項目全てで最下位となって しまいました。「教育の情報化」レースで、近年40位台を走 っていた島根は、GIGAスクールで環境整備が進んだ後続の 県にどんどん追い抜かれて、ついに最下位に転落してしまっ たのです。そして、どん底に落ちてしまうとある意味開き直 る気持ちも生まれてきました。これ以上落ちることはないの です。もう上がっていくしか道はないのです。今に見てい ろ!という思いが胸に湧いてきます。

現在、私は、島根のある市の教育委員会でICT教育推進の お手伝い役をしています。仲間と共に、教員研修会を実施し たり、学校を訪れたりして、地道にICT活用の必要性や便利 さを感じてもらうように取組を行っています。講師役の私が 一方的に説明するのではなく、先生方に模擬授業をする等の ワークショップ形式の研修を進めています。信じて任せると 先生たちはがんばります。授業と同様に、教員研修も「主体 的で対話的で深い学び」になるように工夫していく必要があ ります。教員の意識改革をめざすリベンジの道はまだ続きま す。(T.W)

編集委員

委員長 原 克彦 委 員 泰山 裕 長谷川 弘 委 員 片岡 義順 若槻 徹

事務局 浩美 渡辺 将治 河合 11 制作 西島 将範



賛助会員紹介

学校教育にかかわるすべての人へストレスフリーなインターネットを

インターネット回線プロバイダー















・インターネットが遅い ・100台までしか繋がらない ・接続不良の原因が わからない

パケットロスのリスクを軽減! 1校まるっとオンライン接続!

ローカルブレイクアウト 1,600台 大人数同時接続でも快適!



QRコードから▶

②MSK@ひかり

20

SHINKO

株式会社SHINKO

カスタマセールス統括ユニット エリア営業グループ 東京都台東区浅草橋5丁目20番8号 CSタワー8F

TEL: 03-5822-7605

e-mail: info-eigyou@kk-shinko.com



IZUMI

まなボード

協働学習を促進する 思考の可視化、 アクティブラーニング に最適。

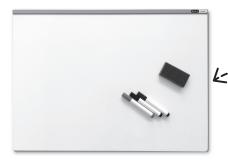
だれでも カンタンに すぐ使えます。











サイズは2種類 (A3用) (A4用) 書き込み透明シートは交換できます



http://www.izumi-cosmo.co.jp/manaboard/ お問い合せは **TEL.03-5719-7482** 泉株式会社 〒141-0021 東京都品川区上大崎3丁目1番1号 JR東急目黒ビル15階